

学校だより



11月号

横浜市立美しが丘東小学校
学校長 藤本 光子ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/es/utsukusigaokahigashi/>

実りの多い「なかよし活動」

副校長 大塚 美穂

青空が広がるとても良い天気恵まれ、なかよしピクニックを実施することができました。5月から始まった「なかよし活動」では、「なかよし集会」や4年ぶりの実施となった「なかよし交歓給食」を通して、少しずつ関係を創り上げていました。その関わりを深める意味でも「なかよしピクニック」はとても大きな意義があります。

1年生から6年生までで構成されたなかよし班での活動は、人との関わりを学ぶ上でも大切な活動です。普段の学級での仲間同士では、ちょっとした表情や言葉で、お互いの気持ちを理解できるようになってきていますが、なかよし活動では、関わりが少ない相手に勇気を出して声をかけなければ話は伝わりません。でも、その分、思いや考えが伝わった時、子どもたちの学びや成長は普段以上のものとなります。特に、6年生は、どの学年のことも考えながら進めなければならないので、とても大変だと思います。

さて、「なかよしピクニック」当日。6年生は、リーダーを中心に、道路を歩いている時や電車の中では、グループの子が全員いるかなどを確認するため、ずっときよろきよろしながら目を配っていました。要所要所で、点呼をする時には、全員揃ったことを確認するとほっとしたような表情になっていました。電車の中で、友達と話している子にそっと声をかけたり、「静かにするように、ちょっと声かけて。」と6年生同士で伝えあったりする姿もありました。そんな6年生の素敵な姿は、5年生にも伝わっていきます。混みあう電車の中で駅に着いた時、5年生が低学年の子に合図をしたり、1年生の相手をしている6年生に代わり、2,3年生が遅れていないか目を配ったりしていました。異学年間で自然に学び合う姿となっているのです。こどもの国の中でのオリエンテーリングでは、広い園内を一周することになります。その時も、6年生が中心となって、目を配りながら低学年のペースに合わせて歩いていました。「大丈夫？歩くの速い？」という優しい言葉はもちろん、「みんなで道に迷っちゃいました！」というアクシデントの中でグループの絆が深まったような言葉も聞こえてきました。高学年と低学年の子が手をつないで歩いている姿もたくさんありました。子どもたち同士の関わりが深まったのではないかなと思います。学校に帰るまで、目配り気配りを続けてくれた高学年。解散して下校となった時に、ホッとしたような表情で帰っていく姿から、大きな責任を感じつつ、達成感を味わったんだろうなと思いました。そして、低学年の子どもたちにとっては、素敵な高学年の姿から学ぶことがたくさんあり、それは、次年度以降のなかよし活動で確実に受け継がれていくのだと思いました。11月以降もなかよし活動が続きます。人との関わりを学ぶことができるなど、実りの多い「なかよし活動」を大切な学校教育の一つとして位置付けていきたいと考えています。

最後となりましたが、地域コーディネーターの皆様、たまプラーザ駅までの往復を見守ってくださったボランティアの皆様、ご協力本当にありがとうございました。子どもたちが安心してなかよしピクニックに行くことができました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。